

四極会がつなぐビジネス

日田支部

平成30年7月27日（金）19時から、四極会石川公一会長ご臨席の中、日田市豆田町蕎麦処草八（そうはち）にて日田支部総会を開催した。支部会員11名に加え、大分から高野浩子理事（大分支部副支部長、大園広子四極会事務局主任が駆けつけて下さった。また、今回は日田市内に赴任中の大分県職員5名の参加があり、総勢19名となった。



大分から高野浩子理事、大園広子さんも出席

総会では、急遽入院した安心院支部長に代る佐藤学副支部長からの挨拶に続き、石川会長から挨拶をいただいた。その中で大分大学、四極会の現況、特に、女性部会誕生の説明などを踏まえ、4年後に迎える100周年を単なる記念事業に終わらせ、次の世代につなげていくための大切な機会ととらえ、各会員へ意識高く参加するよう求められた。

支部の会計報告の後、事業計画の説明では、前回、課題とした総会への参加者増の取り組みとして、まず、支部組織を持つ団体へ働きかけたところ、県職員その他、結果的に急な会議で前日に欠席となったが職員が6名参加する予定であった大分銀行からの協力を得られたことの紹介があった。

また、日田支部としては約10年振りの先輩や、Uターンして四極会は初めてという若手会員の参加もあった。他の支部では珍しくないかもしれないが、当支部で特筆すべきは、佐藤副支部長からの挨拶にあった本業での連携である。平成30年4月発

行「四極」No.114で紹介されている通り佐藤副支部長が地元で栽培に取り組んでいるわさびを使って、初参加の富安大二郎会員（大59）の実家である酒造会社とでコラボした商品売り出している。この商品を巡って、製造、販売の過程で県振興局、保健所等の協力があったり、また、富安会員の実母が日田市観光協会会長として尽力する中、日田市からのバックアップがあつたりと、四極会でのつながりが活かされているのである。四極会が親睦のみならず、このように目に見えた繋がり場として、今後も親交が深まることが期待される事例である。

引き続きの懇親会は、女性部会長にも就任された高野浩子理事の発声による乾杯で始まり、和やかな雰囲気の中、各会員からの自己紹介、校歌、寮歌、逍遙歌の熱唱の後、記念撮影、井上準一元支部長による日田式の締め、大盛況のうちにあつたという間に閉会を迎えた。今回は、草八さんのご理解により、佐藤副支部長が持参した天然わさびをその場ですりおろして、蕎麦をより一層おいしく賞味することができた。

今後とも参加会員の拡大を目指して、機会を見つけて努めて

いきたい。